歩きながら考える

米国のチャータースクールは授業料無料の学習塾・予備校そのもの

―米国チャータースクール視察団に参加して―

開倫塾
塾長　林　明夫

Q：チャータースクールを視察して、林さんはどう思いましたか。

A：(林明夫。以下省略)公立、つまり授業料無料の学習塾・予備校そのものであると私は思いました。

Q：どういうことですか。

A：例えば、カリフォルニア州で 18 万人が学ぶ 510 のチャータースクールでは生徒一人当たり 7000 ドルが州から支給されますので、普通の公立学校と同様に、生徒の授業料は無料です。

ところが、どのようにして先生を採用し、どのような研修を積み、どのような評価をしながら、どのようなカリキュラムで、どのように教えるかは一切チャータースクールの自由裁量であります(特定の宗教教育をすることは認められませんが…)。

Q：どのようなことを中心に据えて教えるチャータースクールがあるのですか。

A：芸術やスポーツ、環境教育などを中心に据えてカリキュラムを組むチャータースクールもあるようですが、大半のチャータースクールは「学力向上」を目的としているようです。

また、大学の先生をチャータースクールに招いて授業を受け、その単位が認定されれば、取得した単位は進学先の大学の単位となるため、大学入学後に再度その科目を履修しなくてもよいしくみになっているチャータースクールも少なくないようです。

Q：それは素晴らしいことですね。

A：はい。チャータースクールで学んだことが大学の単位として認定されれば、大学では直接専門科目を学ぶことができますので、時間短縮になります。何よりも、高校生の持つ長所ややる気、能力を余す所なく伸ばすことができる素晴らしい教育システムであると私も考えます。高校と大学とのより良い接続を考える最近の「接続教育」の上でも、素晴らしい教育システムであると考えます。

Q：先生の採用・研修・評価についても、学習塾や予備校と似ているとのことですが…。

A：はい。教員資格を持った人を中心に、たとえ持っていなくてもそれに相当すると判断した人を、各チャータースクールが自由に先生として採用できるようです。

研修も、教育の質を維持し高めようと、非常に熱心です。週１回、授業開始時刻を２時間遅らせて、先生方の教え方を向上させるためのワークショップ(研修集会)を実施している学校もあるようです。良い業績を残した先生は評価されます。しかし、チャータースクール全体の業績が上がらず、５年に１回のチャータースクール(学校免許)の更新が教育委員会から認められない場合は閉校となり、先生も職を失います。これも、学習塾や予備校と同じで、厳しいものがあります。

－ 2005 年 5 月 26 日 ロサンゼルスにて記す－